防災教育チャレンジプラン

http://www.bosai-study.net

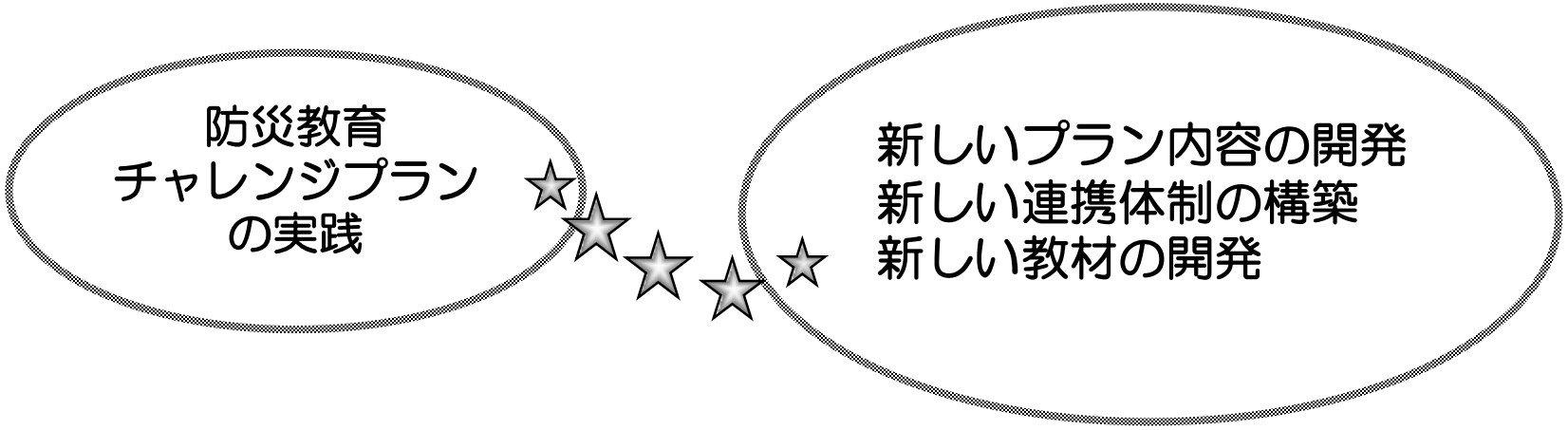
「防災教育チャレンジプランは、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています」

防災教育チャレンジプランとは？

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

一年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容をワークショップを通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。



防災教育チャレンジプランを通じて実現したいこと

1. 「防災教育チャレンジプラン」を通じ、防災教育の新しい試み、アイディアによる活動を支援します。
2. 防災教育に取り組む個人、団体の交流の場をつくり、知恵や情報の共有、取り組みの活性化を行います。
3. 防災教育を推進する個人や団体とともに、防災教育の輪を広げ、個人個人や地域における防災力の向上に努めます。

防災教育チャレンジプラン実行委員

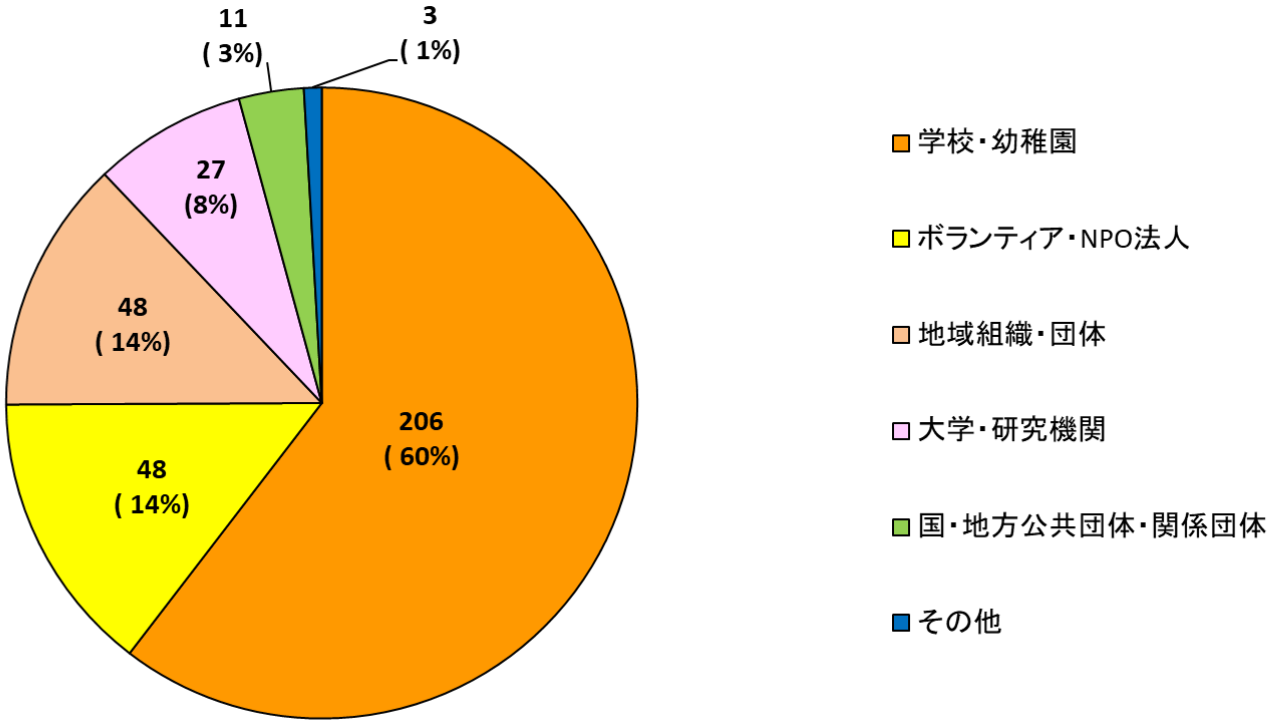
委員長	林　春男	京都大学　名誉教授
委員	池田　真幸	国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程研究部門　特別技術員
	井上　浩一	防災ネットワークプラン　代表
	鍵屋　一	跡見学園女子大学　観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科　教授
	金田　義行	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　副機構長・地域強靭化研究センター長／学長特別補佐・特任教授
	木村　玲欧	兵庫県立大学　環境人間学部・大学院環境人間学研究科　教授
	国崎　信江	株式会社危機管理教育研究所　危機管理アドバイザー
	栗田　暢之	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード　代表理事
	酒井　慎一	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府　教授
	佐藤　公治	南三陸町立歌津中学校　主幹教諭
	佐藤　健	東北大学災害科学国際研究所 防災実践推進部門防災教育実践学分野　教授
	澤野　次郎	災害救援ボランティア推進委員会　委員長
	諏訪　清二	防災学習アドバイザー・コラボレーター
	田上　順一	特定非営利活動法人　日本ジオパークネットワーク　事務局次長
	中川　和之	株式会社時事通信社　解説委員
	平田　直	東京大学　名誉教授
	福和　伸夫	名古屋大学　名誉教授
	舩木　伸江	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科　教授
	舟生　岳夫	セコム株式会社　IS研究所リスクマネジメントG　主務研究員
	南島　正重	東京都立両国高等学校附属中学校　元・主幹教諭
	村山　猛	千葉県立香取特別支援学校　校長
	岡本　弘基	国土交通省水管理・国土保全局防災課　防災企画官
	木下　史子	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課　安全教育推進室 安全教育調査官
	切刀　岳秀	消防庁国民保護・防災部防災課　地域防災室長
	村上　威夫	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）
	吉田　和久	文部科学省研究開発局地震・防災研究課　防災科学技術推進室長

（2023年4月28日現在、所属役職別50音順、敬称略）

これまでの支援状況について（応募枠、部門別）

2004年度から2022年度までの19年間で、延べ343団体の実践活動を支援してきました。

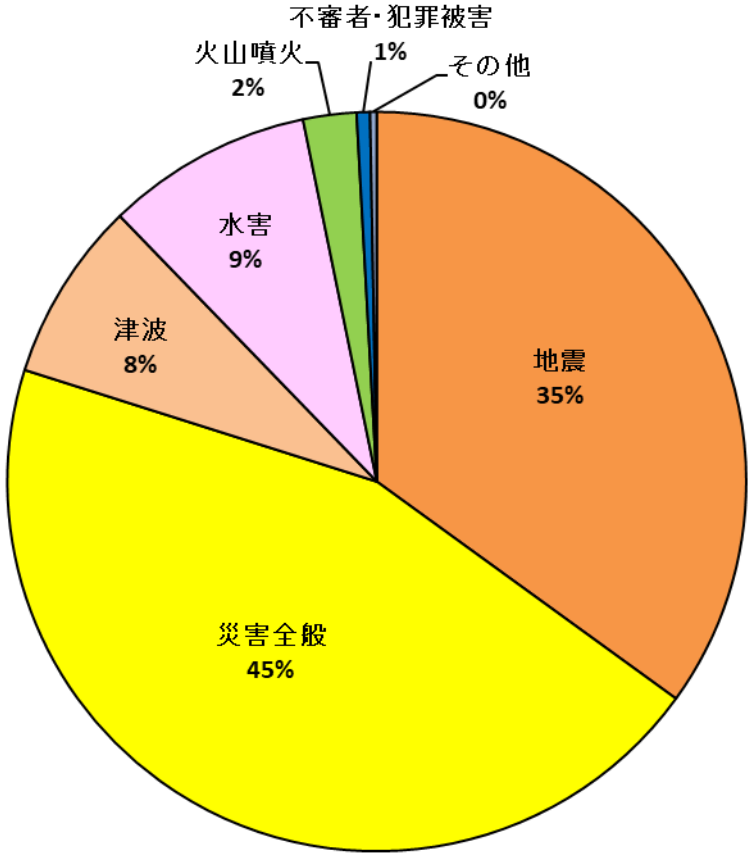
【応募部門別】



これまでの支援状況について（地域別）

これまでの支援状況について（対象とする災害別）

- 地震･･･120団体
- 災害全般･･･154団体
- 津波･･･27団体
- 水害･･･31団体
- 火山噴火･･･8団体
- 不審者･犯罪対策
  ･･･2団体
- その他･･･1団体



具体的な支援内容

- 防災教育チャレンジプランは、一年間かけて新しい防災教育プログラムを磨き上げるための支援を行います。

1. 活動資金の提供

・最大30万円の活動支援金を提供します。

2. 報告会・交流会への招待

・3回のイベントを通じ、他の実践団体、アドバイザー等との交流の機会を提供します。

3. 活動アドバイスの提供

・実践団体のニーズや事情を踏まえ、アドバイザーを派遣し、関連情報を提供します。

- これらによる活動成果は、防災教育チャレンジプランのホームページを通じ、広く社会に情報発信されます。

募集概要

【サポートの内容】
- ●プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による）
  ※経費は、実践活動終了後の「完了払い」となりますので、活動期間中は各実践団体での立て替えとなります。
  活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。
- ●交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3回分）
- ●プランの実現に向けて、下記のサポート主体が対面・オンライン問わず助言や現地指導等の支援を行います。
- ●防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種webツールを提供します。

【サポート主体】
- ●防災教育チャレンジプランアドバイザー
  - ・防災教育チャレンジプラン実行委員
  - ・防災科学技術研究所研究員
  - ・サポーター（過去の実践団体）
  - ・その他防災教育専門家等
- ●防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

【表彰】
- ●活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、 表彰状と盾を授与いたします。
- ●防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

応募資格

- 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）
- 採用された場合は、現地開催・オンライン開催問わず実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。
- オンライン開催となった場合、参加可能なインターネット環境(通信回線、機材、アプリケーション等)を用意できること。

応募部門(プランの対象別)

A. 保育園・幼稚園等の部	B. 小学校低学年の部	C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部	E. 高等学校の部	F. 大学・一般の部

応募方法

ホームページ（http://www.bosai-study.net）より事前登録後、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上ホームページへアップロードしてください。

1年間の流れ

1. **募集**
   応募締切2023年11月15日(水)
   教育・社会福祉施設／教育委員会／NPO／地域団体／個人
2. **審査**
   2024年1月
3. **決定発表**
   2024年2月10日（土）
   2023年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
   開催（オンライン開催）
   ○2024年度チャレンジプラン（活動計画）発表
   ○2023年度チャレンジプラン成果発表・表彰
   （防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
   ○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換等
4. **実践**
   2024年4月～2025年3月
   2024年度
   防災教育チャレンジプランの実践
   ○チャレンジプランへのサポート
   プラン進行や教材作成にあたってのアイディア提供・資材提供等
   ○アドバイザー等の紹介・派遣等
5. **中間報告会**
   2024年10月（予定）
   2024年度防災教育交流フォーラム
   開催（オンライン開催を予定）
   ○2024年度チャレンジプラン中間報告
   ○交流会・意見交換会
   ○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等
6. **活動報告会**
   2025年2月（予定）
   2024年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
   開催（オンライン開催を予定）
   ○2024年度チャレンジプラン成果発表・表彰
   （防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
   ○防災教育チャレンジプランサポーターに認定
   ○2025年度チャレンジプラン発表

審査

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定します。
審査の結果は、事務局よりメールにて応募団体へご連絡します。（応募締め切り後1ヶ月程度）

［審査の観点］
- ・プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること
- ・応募された防災教育プランの有効性・新規性
- ・活動の中に新しいチャレンジの要素が含まれているもの

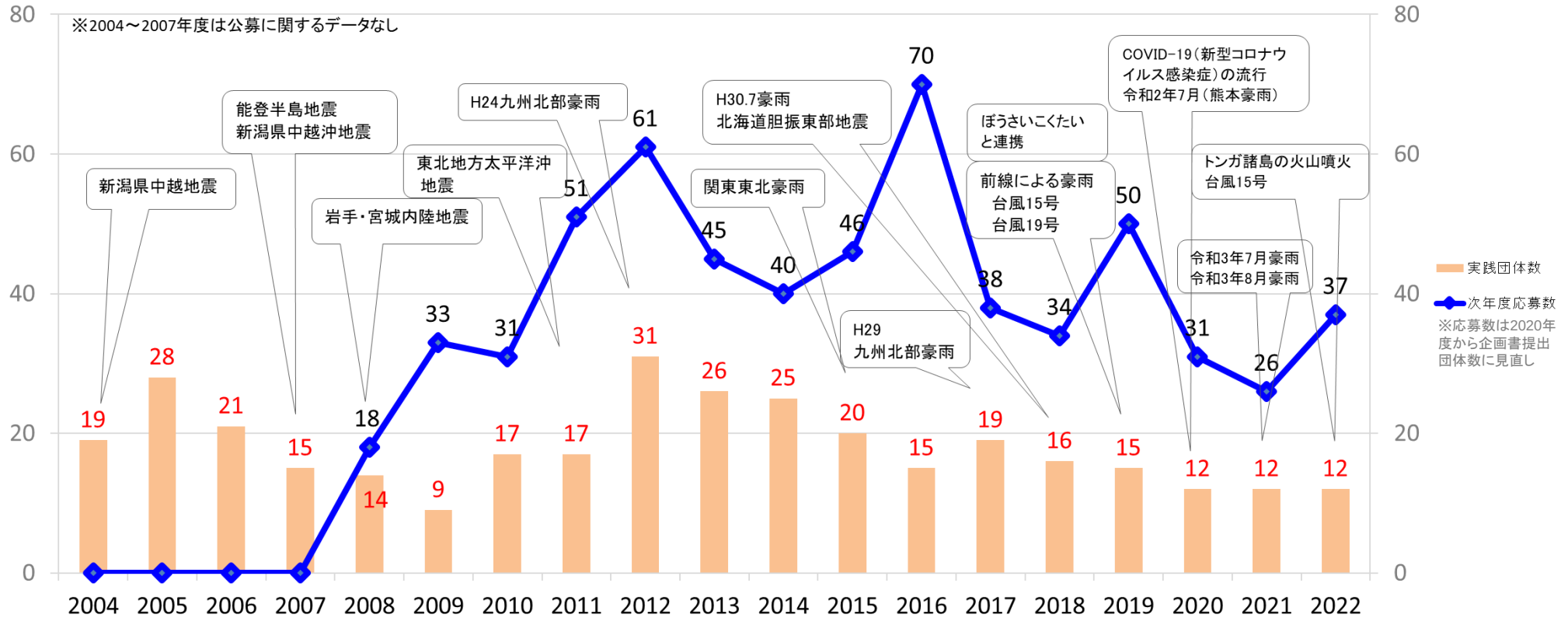
［次年度チャレンジプランの発表］
- ・当年度の活動報告会の会場にて、次年度チャレンジプランの計画を発表いただきます。

これまでの防災教育チャレンジプランの活動

年度	主な出来事	国内の主な自然災害	事務局業務
2001 ～ 2003	防災教育普及策検討委員会／防災教育プログラム策定委員会 ※2004年に防災教育チャレンジプラン実行委員会として独立	平成14年台風第21号 平成15年台風第10号 平成15年（2003年）十勝沖地震	—
2004	防災教育チャレンジプラン実行委員会発足	平成16年7月福井豪雨 平成16年7月新潟・福島豪雨 新潟県中越地震（10月）	NPO法人キャリア・ワールド
2005	—	—	
2006	—	平成18年豪雪 平成18年7月豪雨	
2007	メールマガジン発行開始	能登半島地震（3月） 新潟県中越沖地震（7月）	株式会社パスコ
2008	—	岩手・宮城内陸地震（6月） 平成20年8月末豪雨	
2009	—	平成21年7月中国・九州北部豪雨	
2010	中間報告会を「防災教育交流フォーラム」に改称し、中間報告会と防災教育交流会の2日間の日程で開催	—	
2011	被災地の実践団体3団体に「復興教育特別大賞」を授与	東北地方太平洋沖地震（3月） 平成23年7月新潟・福島豪雨	
2012	実践団体の応募枠として入門枠を創設	平成24年7月九州北部豪雨	
2013	・防災教育チャレンジプラン10周年 ・一般社団法人防災教育普及協会の設立（2014年3月27日）	—	
2014	・第3回国連防災世界会議にて優秀団体による事例発表を実施 ・「地域における防災教育の実践に関する手引き」発行	—	
2015	—	平成27年9月関東・東北豪雨	株式会社パスコ
2016	—	熊本地震（4月）	
2017	—	平成29年7月九州北部豪雨	
2018	防災教育チャレンジプラン15周年	大阪府北部地震（6月） 平成30年7月豪雨 北海道胆振東部地震（9月）	
2019	ぼうさいこくたいと連携	前線により豪雨 台風15号 台風19号	
2020	報告会オンライン初開催	COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行 令和2年7月豪雨	
2021	報告会オンライン開催	令和3年7月豪雨 令和3年8月豪雨	
2022	防災教育交流会が3年ぶりの現地開催	トンガ諸島の火山噴火 台風15号	

防災教育チャレンジプランの19年

- 防災教育チャレンジプランは、新潟中越地震が発生した2004年にスタートし、毎年10～30の実践団体の活動を支援しています。



年間スケジュール

①全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集

③活動報告会にて実践プランの計画を発表

⑤中間報告会にて実践プランの中間成果を発表

募集 ▶ **審査** ▶ **実践団体決定会** ▶ **実践**

実践
- 中間報告会 2023年10月頃
- 活動報告会 2024年2月頃

2023年8月～11月 → 2023年12月 → 2024年2月 → 2023年4月～2024年3月

②「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定

（審査の観点：プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること。等）

④プラン実施期間

（サポート内容：実践にかかる経費の提供、アドバイザー・サポーターによる助言や現地指導等の支援　等）

⑥活動報告会にて実践プランの活動成果を発表

（表彰：優秀な活動に対して表彰をする。チャレンジプランサポーターとして認定する。）

活動の様子

防災教育の実践

中間報告会・活動報告会で
活動の成果を発表

防災教育交流フォーラム
参加者による意見交換

報告会の様子

報告会会場内の様子

発表の様子

発表の様子

展示の様子

表彰の様子

リモートの様子

表彰について

１年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

【過去の受賞団体と活動の様子（2022年度、2021年度）】

防災教育大賞　2011team釜石小ぼうさい
大津波を生き抜いた子どもたちのひみつが未来の命を救う
2011 team 釜石小の軌跡『このたねとばそ』

東日本大震災で実際に避難行動をとった先輩が、被害に遭った街を歩きながら、後輩に語りかける「伝承活動」は効果的な取組であるという点、震災体験を書物にまとめ、次世代に繋いでいくことは社会的な意義を感じさせる取組だという点等が高く評価されました。

防災教育優秀賞　愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発
―町内防災運動会をとおした「地域発」の学び―

文京 de BOSAI
文京★こども「ぼうさい」スタンダード
～こどもを通じて地域の大人に「ぼうさい」の大切さを伝える～

防災教育特別賞　愛知県立ひいらぎ特別支援学校
防災学習で学ぶ「命の守り方」
～自分で・学校で・地域で～

愛知工業大学名電高等学校
名電チャレンジ！
～減らして防ぐ災害マニュアル～

‘22

防災教育大賞　京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
実践マネジメント第2章―京都東稜のぼうさい普及活動―

コロナ環境下でも、年間を通じて計画的にカリキュラムを実施されている点、地域とのつながりを重視した活動に力を注いで取り組まれている点、動画、京都の土地柄を生かした歴史防災教訓学など、高校生の取り組みやすい関心と手法を用いた点等が高く評価されました。

防災教育優秀賞　名古屋市立工芸高等学校都市システム科／工芸防災チーム
防災について考え、行動できる人の輪づくり
～住民の、住民による、住民のための防災訓練～の支援

千葉県立銚子高等学校
県銚ぼうさい探究！

防災教育特別賞　糸魚川ジオパーク協議会
活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト

長岡技術科学大学
地域レジリエンス力獲得のための防災ワクチンTM教材の開発

岡山大学教育学部・酒向研究室
ダンスを用いた防災教育「ぼうさい PiPit! ダンス」

‘21

防災教育チャレンジプラン審査委員(2022年度)

委員長	渡邉　正樹	東京学芸大学教職大学院 教授
委員	安藤　雄太	東京ボランティア・市民活動センター　アドバイザー
	安藤　慶明	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事
	池内　幸司	東京大学大学院 工学系研究科 教授
	上村　昇	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
	小正　和彦	全国連合小学校長会 庶務部長／横浜市立みなとみらい本町小学校　校長
	佐竹　健治	東京大学地震研究所 所長・教授
	重川　希志依	常葉大学大学院 環境防災研究科　教授
	嶋倉　泰造	東京海上ディーアール株式会社　代表取締役社長
	戸田　芳雄	学校安全教育研究所 顧問／日本安全教育学会　理事長
	林　春男	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長
	福島　隆史	株式会社TBSテレビ 報道局 社会部兼解説・専門記者室 解説委員
	森田　公剛	日本電信電話株式会社技術企画部門　災害対策室　室長
	山﨑　登	国士舘大学防災・救急救助総合研究所 教授
	山本　竜太郎	東京電力ホールディングス株式会社 常務執行役
	米田　徹	日本ジオパークネットワーク 顧問／新潟県 糸魚川市長
	米村　康	東京ガスネットワーク株式会社　防災・供給部　部長

（2022年7月25日現在、所属役職別50音順、敬称略）

サポーター制度の概要

- サポーターとは

  防災教育チャレンジプランの実践団体としての活動で得られた成果やノウハウを、各地域の中で普及・啓発させる担い手となる個人又は団体である。

- サポーターの認定

  防災教育チャレンジプランで、一年間実践団体として活動し、成果を報告した団体。

  毎年２月に開催する活動報告会において、サポーター認定証を授与する。

サポーター認定証

愛知県立ひいらぎ特別支援学校殿

貴団体は「2022 防災教育チャレンジプラン」実践団体として多大な成果をあげられました
今後もその成果を活かして防災教育普及のためにサポーターとして活躍されることを期待しこれを証します

2023 年 2 月 11 日

防災教育チャレンジプラン実行委員会

委員長　林　春男

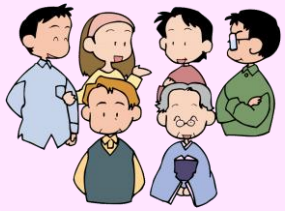
外部への情報発信と交流について

情報発信

CP事務局スタッフ

ホームページでの情報公開

一　般



実践団体

サポーター

実行委員

他事業との交流

防災教育チャレンジプラン以外の防災教育関連事業との交流を図るため、防災教育交流フォーラムにおいて他事業の主催者・事例団体や、地域で防災教育に取り組む方々を招待し、講演・意見交換を行っています

＜2013年度の実施例＞

●岩手県立宮古工業高等学校

（消防庁　防災まちづくり大賞受賞団体）

●特定非営利法人まなびのたねネットワーク

（文部科学省　復興教育支援事業採択団体）

●NPO法人さくらネット

（ 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」事務局）

●日本損害保険協会

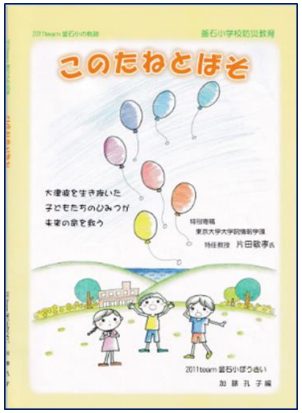
（小学生のぼうさい探検隊マップコンクール主催者）

参考） 実践団体の活動の様子

2022年度 防災教育大賞受賞

2011team釜石小ぼうさい

プラン名「大津波を生き抜いた子どもたちのひみつが未来の命を救う 2011 team釜石小の軌跡『このたねとばそ』」



東日本大震災伝承本
『このたねとばそ』の発刊

フィールドワーク

パネルディスカッション

- 東日本大震災を体験し、実際に避難行動をとった先輩が、被害に遭った街を歩きながら、後輩に語りかける「伝承活動」は非常に貴重で、効果的な取組であるという点
- 震災体験を風化させないよう書物にまとめ、次世代に繋いでいくことはとてもすばらしく、社会的な意義を感じさせる取組だという点
- 防災教育の成功事例を全国に発信させることは、全国の防災教育の参考ともなり、国民全体の防災意識向上に役立つと感じられる点等が高く評価されました。

参考） 実践団体の活動の様子

2021年度 防災教育大賞受賞

京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

プラン名「実践マネジメント第2章―京都東稜のぼうさい普及活動―」

避難所設営動画づくり

歴史防災教訓学

医療用ガウンづくり

- コロナ環境下でも、週4時間の科目設定など、年間を通じて計画的にカリキュラムを実施されている点
- 昨年度からの継続案件であり、昨年度と比較して地域とのつながりを重視した活動に力を注いで取り組まれている点
- 動画、京都の土地柄を生かした歴史防災教訓学など、高校生の取り組みやすい関心と手法を用いた点等が高く評価されました。

参考） 過去の受賞団体（2004～2007年度）

年度	表彰	団体名
2004	大賞	和歌山県 田辺市立 新庄中学校
	優秀賞	高知県 高知市立 大津小学校
	優秀賞	静岡県 南伊豆町立 南中小学校
	優秀賞	愛知県 名古屋市立 大曽根中学校
	特別賞	NVN 日本沼津災害救援ボランティアの会
	特別賞	防災一座
	特別賞	和歌山県 串本町 防災対策課
2005	大賞	徳島県 美波町立（旧由岐町） 由岐中学校
	優秀賞	千葉県 我孫子市立 湖北小学校
	優秀賞	高知県立 高知東高等学校
	優秀賞	高知県立 高知東高等学校
	特別賞	（社）土木学会 巨大地震災害への対応検討特別委員会／地震防災教育を通じた人材育成部会
	特別賞	特定非営利活動法人ぴーす
	特別賞	小松市民防災センター

年度	表彰	団体名
2006	大賞	神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニット
	優秀賞	社会福祉法人 知恩福祉会 海童保育園
	優秀賞	阪神・淡路大震災まち支援グループまち・コミュニケーション
	優秀賞	千葉県立 市川工業高等学校 建築科耐震研究班 建築科主任
	特別賞	静岡県建築士会 （有限会社マルワ建工）
	特別賞	学校法人 遺愛学院 遺愛女子高等学校
	特別賞	KiraKira
	特別賞	千葉県立 市川工業高等学校 建築科 教諭
2007	大賞	静岡県立 御殿場南高等学校 地学教室
	優秀賞	社団法人 兵庫県建築士会 住教育支援チーム
	優秀賞	国立大学法人山口大学・地域防災ユニット
	優秀賞	独立行政法人 国立高等専門学校機構 秋田工業高等専門学校
	特別賞	特定非営利活動法人 日本沼津災害救援ボランティアの会（ＮＶＮ）
	特別賞	岩手県 大船渡市立 綾里小学校
	特別賞	愛媛県 松山市立 生石小学校

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2008	大賞	特定非営利活動法人ひまわりの夢企画	震災で家屋が倒壊した場合などを想定した、難易度が調整できる楽習(がくしゅう)迷路という教材を作成し、迷路内に配置した、災害時に必要な物資が記載されたカードの収集などから、被災時に必要な物や防災活動などを学べる点が評価されました。
	優秀賞	高知県立高知東高等学校	全生徒と全教職員が一体となって防災教育プログラムを展開し、校内に「地震防災プロジェクト委員会」を設置し、他校生徒や地域とのワークショップなどにより、防災教育の取り組みを地域に拡げた点が評価されました。
	優秀賞	名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト ～1944東南海・1945三河地震	「１クラス・１年間」「多人数・２時間」という２つのプログラムを実践し、その中で、土地の歴史災害である三河地震の体験を元にした再現絵など地域に密着した教材の作成、演劇による地域へ還元などが評価されました。
	優秀賞	社会福祉法人岐阜アソシア視覚障害者生活情報センターぎふ	「障害者は全て要援護者か」という疑問から出発し、触(しょく)地図(ちず)の作成や普通救命講習１の習得などを通して、障害があっても当事者としてできることがあることを発見し、実践した点が評価されました。
	特別賞	なでしこ防災ネット	女性視点での防災対策に着目し、サバイバルＤａｙキャンプなどで発見した課題やその解決策などを時系列に取りまとめたリーフレットや、視覚障害者向けの点訳リーフレットを作成したりするなど、多くの教材を作成し、活動の輪を拡げた点が評価されました。
	特別賞	東北福祉大学ピンチヒッター	災害時に配布される非常食に一般的な食材を加えるなどアレンジし、乳幼児や高齢者のレシピを作成したことや、アレルギーをお持ちの方のためにレシピを工夫するなど、災害時における食の問題に取り組んだ点が評価されました。
	特別賞	和歌山県立有田中央高等学校	防災マインドマップという新しい教材に取り組んだこと、高校生の総合学習として９教科に防災を組み込み、防災教育・実習・訓練から災害時の身の守り方などを学ぶだけではなく、その知識を出前授業で活用した点が評価されました。
2009	大賞	宮城県丸森町立丸森東中学校	改援隊（かいえんたい）という組織を作り、少子高齢化の中山間地で、中学生が主体となってＰＴＡや地域住民、社会福祉協議会など多くの団体と連携し、地域防災訓練を実施するなど、地域防災力の向上に取り組んだことや、農業など幅広い分野にも波及して取り組んだ点が高く評価されました。
	優秀賞	紀の川市立荒川中学校	阪神・淡路大震災の被災者を取材し、体験談などを防災教育番組として作成し、校内放送という学校にある設備を使って、全校生徒へフィードバックするとともに、放送内容の小冊子化や地域と連携した防災マップを作成した点が評価されました。
	優秀賞	特定非営利活動法人日本沼津災害救援ボランティアの会	高齢者が行うＡＥＤという視点から、災害弱者にならない高齢者を育成するための訓練や、ＡＥＤを一般の方へ、より知ってもらうためのＡＥＤマップ作成などの普及を実施したこと、ＡＥＤの手順を歌で覚えてもらうなど工夫を重ねた点が評価されました。
	特別賞	滋賀県立彦根工業高等学校都市工学科	高校生が地域住民や小学生らと一緒になって災害時の避難場所に「かまどベンチ」を製作し、防災設備を形として残すとともに、「かまどベンチ」を使った炊き出し訓練を行うなど、地域とのコミュニケーションをより一層深める取り組みを実施した点が評価されました。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2010	大賞	滋賀県立彦根工業高等学校	「かまどベンチづくり」を通じた小学校や地域との交流を継続しつつ、高齢者福祉施設との製作交流により、高齢者からの防災知識・知恵を継承するなど、地域・行政・関係団体との連携を一層深め、「一物多様」な展開をしたことが評価されました。
	優秀賞	なでしこ防災ネット	井戸や湧水の現状調査を行い、災害時に生活に必要な水をどうやって確保するかを目的にした実践的な訓練を行ったこと、また視覚障碍者などの災害時要援護者への配慮が感じられたこと、そして子供も含めた大勢の市民の参加による取組であったことが評価されました。
	優秀賞	釜石市立釜石東中学校	「助けられる人」から「助ける人」への防災教育として被災者を出さないことを目的としたことや「安否札1000枚配布大作戦！」などが新しい視点での取組であったこと、全校生、全教員、そして地域と連携して実施されたことが評価されました。
	特別賞	西大和６自治会連絡会	特に住民の「共助」の意識を高めることを目的として地域を巻き込み、また切実な課題となっている災害時要援護者対策の要綱を作るなど、他の団体にも展開していくことができる、モデルとなる活動であった点が評価されました。
	特別賞	佐用高校農業科学科防災プロジェクトチーム	豪雨によって被災した地域の活性化に、農業高校の特性を生かした花の栽培と提供を核とした活動がなされたことが、復興期の住民の精神面の働きかけるものとして新鮮であること、今後の活動の展開に期待ができる点が評価されました。
2011	大賞	愛知県立半田商業高等学校	商業高校の特性を活かした商品開発と販売に独創性があって、かつ同様の専門性を持つ学校での取組の参考となる点、そしてデジタル紙芝居など、高校生・小中学生の双方の防災意識向上に役立っている数々の活動を行っている点、「ハートツリー」の販売実習により義援金を届ける活動が被災地への大きな復興支援活動となったため。
	優秀賞	高津養護学校　たかつ地域ネットワーク推進会議	災害時要援護者支援という大きな課題に対し、避難所設営訓練という具体的で実践的な活動を５年間継続し、結果として地域との連携を含め定着してきた活動となった点、そして「静かな避難所」など様々な要援護者への配慮を持った取り組みであったため。
		「やさしい日本語」有志の会	必ずしも対策が十分ではない在日外国人の災害時の安全確保に積極的かつ具体的に取り組んでいる点、そしてその汎用性及び有用性の高さが評価されたため。
	特別賞	千葉県立東金特別支援学校	防災マルチパーテーションの作成など自らアイデアを出しての活動となり障がいのある方にも自ら参加して役に立っているという意識を持たせることができた点、そして特別支援学校と高齢者など地域のネットワークが構築されつつあり成果を上げているため。
		糸魚川市立根知小学校	地域の歴史と自然環境を結び付けた上で、地域住民も巻き込み防災教育の視点からジオパークに関する学習を再構築した点や、徹底的に子供たちに考えさせる姿勢を貫き通すことで臨機応変な対応ができるようにリードしているため。
	復興教育特別大賞	釜石市立釜石東中学校 南三陸町立歌津中学校 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校	3月11日の東日本大震災で被災しながらも、防災教育チャレンジプランの実践団体として１年間大変な中活動を続け、復興に向けて地域に多大な貢献をされました功績を称えるため、特別に設定された。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2012	大賞	糸魚川市立根知小学校	アイデアが豊富で、実効性のある訓練をこどもが楽しんで学べる点、学校をあげた組織的な活動であり、継続性が期待できる点、他校への波及が見られる点、児童だけでなく、保護者・地域を取り込んだ防災レベルの向上につながっているため。
	優秀賞	秋田県大館市立第二中学校	中学生が地域の防災リーダーになるというコンセプトに、将来への有効性やインパクトがある点、積雪という地域に特有の災害をとらえて訓練を行うなど、地域に根付いた活動を行っているため。
		千葉県立東金特別支援学校	防災をテーマとした地域との交流に熱心に取り組み、地域の防災力向上に貢献している点、特別な防災教育ではなく、歌などの一般的な教育の中に防災の視点を取り入れている点、完成度、汎用性が高く他団体の参考になる取組であるため。
	特別賞	気仙沼市立階上中学校	東日本大震災という厳しい体験を乗り越え、防災対策を見直し、新たな取組を行っている点、その結果として、昨年末の地震発生の際に、避難所設営など中学生自ら訓練通りの行動ができ、成果が発揮できている点、来年度は復興の観点も踏まえた新たなチャレンジに期待できるため。
		わがやネット	家庭における家具の転倒防止という身近な防災対策に焦点を絞って、地域に根付いた継続的な取組が行われている点、さらに、子どもたちへの教育という新たなチャレンジを行っているため。
2013	大賞	気仙沼市立階上中学校	小中合同の訓練、学年別防災体験活動、避難所設営訓練など様々な訓練の充実が図られ、地域と密接に連携しつつ、震災を風化させない工夫がなされている点、3年間で防災学習のサイクルを構築するなど、体系的かつ継続性が高い取組みがなされている点、また、こうした取組みが生徒の主体的な行動に結びついているため。
	優秀賞	仙台市立南吉成中学校	学校教育の中で、充実した活動が多岐にわたり行われ、生徒の関心を保つ工夫がなされている点、地域を含めた防災訓練・シンポジウムを中学生が主導し、地域防災力の向上に貢献している点、丁寧なアンケート分析により成果を明確にし、PDCAサイクルのもと取組の充実がなされるとともに、汎用性や有効性が示されているため。
		飯田市赤十字奉仕団	郷土の災害について丹念に調べ、紙芝居により後世に語り継ぐ努力がなされている点、良質の紙芝居が多くの場で上演され、ＤＶＤ化によりさらに活用の幅が広がった点、前作の「恐怖の集中豪雨」や、今作の「飯田大火とりんご並木」など新たなチャレンジをしつつ、地域とのつながりを拡大する努力を行うなど、継続的に活動されているため。
	特別賞	アトリエ太陽の子	防災教育の根本として、「命の大切さ、尊さ」というテーマを明確にし、子供たちの感受性に強く訴え、心に残る取組としての工夫をこらしている点、被災地への精神的な支援において、高い独自性を発揮している点、また、このような独自性の高い取組みを他の地域でも取り組めるようパッケージ化にも努めているため。
		千葉県立千葉聾学校	大きな被災経験が少ない地域で、試行錯誤しつつ、学校を中心として関係機関・地域・家庭が連携し、多様な「命を守る学習・訓練」を通じて、熱心に防災教育に取り組み、確実に防災意識の向上を図ることにより、地域防災力の向上につなげているため。
		御嵩町立上之郷小学校	親子で居住する地域の防災安全マップの作成、テーマパークの避難誘導の聞き取り調査など、学校周辺の活動に留まらず、あらゆる場所での災害との遭遇に対して危機意識を持った活動が行われている点、地域とのつながりが希薄な中で防災コミュニティへの積極的な参加を図りつつ、障害への理解と共助の意識の共有に努めているため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2014	大賞	仙台市立南吉成中学校	中学生が主導的に防災訓練の企画等を行うことによって、生徒の防災活動に対する主体性・積極性が養われる。地域防災の中核となる中学生の育成が計らえている点、学校・地域・家庭の強度体制化を図り、学校という枠を超えた地域全体としての防災教育活動を展開しているため。
	優秀賞	香川県立盲学校	聴覚・嗅覚・触覚などを生かした独自の体験型学習を進め、これにより生徒の防災力の向上が計られた点、避難所等における目の不自由な人の円滑な移動について、ガイドロープを用いた方法を提案し、実証実験を交えたため。
		上富田ふれあいルーム	非常に多くのプログラムを熱心に企画・実施し、防災教育の主な対象である子供たちが飽きない工夫をしている点、また、子供たちが自ら考え動くプログラムを行うことによって、子供たちの責任感や積極性が養われているため。
		埼玉県立日高特別支援学校	災害時に身体が不自由な生徒をいかに避難させるかという難しいテーマに対して、緊急地震速報を用いた避難訓練、そして引き渡し訓練の実施、職員研修による校内危険箇所の洗い出しなど、着実に検討を積み重ねているため。
	特別賞	周防大島町立城山小学校	瀬戸内海地域の地震津波対策の要点をかぞえ唄としてまとめ上げ、子供から老人まで対象を選ばず、広く防災活動を行ってきた点、過去の災害の教訓から学び、今後の地震津波対策に生かそうとしているため。
		防災腹話術研究会	独自性の高い分野にも関わらず、教室に通うことで自己修得し、子供から大人まで対策を選ばない防災知識の啓発ツールを作り上げた点、また、教本の作成や研修会を通して、取組みを進め、全国に広めようとしているため。
2015	大賞	香川県立盲学校	様々な機関・他団体と連携しながら、身近な物を利用した様々な体験学習や訓練等を通じ、視覚障害者に対しての総合的な防災教育に取組むことができている点、視覚障害者に対しての防災教育は前例が少ない中、試行錯誤を繰り返しながら、丁寧に取り組んでいる点、また、取組を通じて、「生徒」、「教員」、「地域」の意識改革において着実な成果が見られるため。
	優秀賞	埼玉県立日高特別支援学校	子供が興味を持ちやすく、理解しやすい様々な取組みを実践している点、活動が定期的・継続的に実施されており、知識・行動の定着が期待できる点、児童生徒、保護者、教職員、PTAをはじめとして地域の人々と密接に連携しながら防災教育に取組むことができている点、また、他団体の取組事例等を効果的に活用・応用できているため。
		西予市立皆田小学校	町歩き等を通じて「地域を良く知ること」を実践し、効果的に地域防災力の向上を図ることができている点、実験や体験を通して、災害や地域特性について科学的な理解を深めることができている点、また、自然災害の恐ろしさだけでなく、享受している恩恵についても学習できており、バランスの取れた取組みになっているため。
	特別賞	いのちを守る防災教育を推進する会	ワークショップのシナリオについて、約２０校に及ぶ小・中・高の教職員と連携し、子供が主体的・積極的に参画可能な完成度の高いプログラムを作成した点、広域な地域における学校を対象とし、３団体が高度に連携しながら効果的な防災教育活動を実践できている点、また、気象予報士会との連携によるTV放送等、広報活動を積極的に実施しており、今後の展開に期待が持てるため。
		名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)	「単位制・定時制」の学校では様々な困難がある中、多くの工夫した取組を実践し、効果的に防災意識の向上を図っている点、具体的には、演劇やスポーツ等、楽しく参加できるイベントに防災教育を組み込むことにより、効果的に防災意識の向上を図っている点、災害をテーマにしたラジオドラマや職員による演劇、防災クイズ等、取組みに独自性があるため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2016	大賞	豊橋障害者(児)団体連合協議会（豊橋市障害者福祉会館さくらピア）	防災グッズの作成など、独自の取組みを多く実践している点、「障害者に対する防災教育」を多くの人に理解してもらえるよう、効果的な企画を立案・実践している点、知識や避難行動の定着に向け、粘り強く、工夫しながら取り組んでいる点等が高いため。
	優秀賞	大島町立小学校（つばき小学校・さくら小学校・つつじ小学校）	地域の特色を良く活かして取組んでいる点、科学的な観点から深く学習できている点、島内の小中学校が年間を通して交流・連携し、取組みを深化させている点等が高いため。
		東京都立足立工業高等学校	全ての教科において効果的な防災教育を実践しており、新規性、独自性が見られる点、生徒と教職員が一体となって取り組んでいる点、防災士の資格取得など、生徒が効果を実感しやすい取組みを行っている点等が高いため。
	特別賞	高知市立南海中学校	中学生が主体的に行動し、地域と連携した防災教育を実践している点、中学生の取組みを起点として、地域に防災文化を構築するという一連の取組みに新規性が見られる点、多くの機関と効果的に連携している点等が高いため。
		名古屋市立工芸高等学校防災チーム	工芸と芸術の学校という特徴を活かした取り組みを実践している点、生徒が主体的に行動し、広く団体、企業等と関係を築くことができている点、今回の成果を応用し、より魅力的な取組みへと発展させている点等が高いため。
2017	大賞	千葉県立矢切特別支援学校	支援学校の子供に天候を教えるプロセスが非常に良い点、天候について多くのプログラムを実施し子供たちが自立して環境に適応してきている点等が高いため。
	優秀賞	南阿蘇村立南阿蘇中学校	防災教育を別項目とせず通常の授業・科目を利用し、効果的に取組めている点、学校教育の中の取組で外国人の対応についても考えられている点等が高いため。
		つくば市立吾妻学園おやじの会	児童と小中のＰＴＡ・保護者が主体となり精力的に防災教育に取り組んでいる点、防災手帳などのアウトプットなどがしっかりとしている点等が高いため。
	特別賞	葉山町立一色小学校避難所運営委員会	小学校が軸となり教員、保護者、地域住民、児童が連携をした地域防災の向上に寄与した取組である点、避難所となる学校が運営員会を立ち上げ事前の取組を行っている点等が高いため。
		一般社団法人　長洞元気村	お年寄りが地域性を活用し訪問者を受け止め被災経験を伝承している点、防災教育を産業として挑戦している点等が高いため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2018	大賞	上富田ふれあいルーム	年間の行事に防災を結び付け、防災の日常化に取り組んでいる点、子供が楽しんで実施できる内容で記憶にも残る取組である点、多彩な防災プランがどれも汎用性、有効性があり水平展開を期待できる点等が高いため。
	優秀賞	高知県立大方高等学校	南海トラフ地震で全国最高の津波高を背景に、実践的な活動が行われている点、HUGの作成･実践を通じて生徒自ら考え行動に移せている点、オリジナルHUGの作成を地域住民も巻き込んで取り組んでいる点等が高いため。
		四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会	訪日外国人や子供、高齢者等の防災も考えて活動している点、自治体、地域組織など多くを巻き込み多様な取組を行っている点、地域特性をよく活かし防災フェス等のイベントを積極的に企画･実施している点等が高いため。
	特別賞	目黒星美学園中学高等学校	目を背けたくなる災害や防災に、「わくわく感」をもって取り組んでいる点、災害時のトイレ問題の解決に向け、女子生徒の視点で取り組んでいる点、生徒が自ら考え行動する精神を次世代の後輩に受け継ぐといった自発性･継続性を持った活動が行われている点等が高いため。
		川崎医療福祉大学　医療福祉マネジメント学部　医療福祉デザイン学科	デザイン学科の独自性と医療福祉の知識を活かし取り組んでいる点、NBC災害への対応という新たな視点を持って取り組んでいる点、外国人や障害者を対象に自然災害用とは異なる独自デザインによるピクトグラムを作成している点等が高いため。
2019	大賞	目黒星美学園中学高等学校	学校の日常に防災を溶け込ませ、様々な教科を防災に結び付け、生徒の防災意識を高める防災教育に取り組んだ点、生徒が主体的に防災を学び、先生が生徒の主体的な工夫を引き出す防災教育を地域と連携し学校内外で実施した点、他の団体へ横展開できる防災教育の具体的なモデルプランを実践した点等が高いため。
	優秀賞	岡崎市立常盤東小学校	小さな学校、児童が地域に出向き、出前発表など地域の防災力向上にも繋がる取組である点、地域住民や行政と連携・協力し、避難訓練や土砂災害タイムラインの作成など多岐にわたる防災活動を計画的に実施した点等が高いため。
		京都市立正親小学校	児童が自主的に防災を考え、自分たちの視点で取り組めるよう工夫を凝らした防災教育を実践した点、児童が一方的に学習するだけでなく、低学年や地域住民に伝える防災教育に取り組んだ点等が高いため。
	特別賞	高知県立大方高等学校	南海トラフ地震における津波高を背景に地域活動を継続的に実施している点、オリジナルHUGの実践に加え、出張HUGを行うなど活動を地域全体に広げた点等が高いため。
		ミラクルウィッシュ	子育て中の母親のコミュニティづくりと防災を上手くリンクさせ取り組んだ点、家族で楽しくできる防災など子育て中の母親の視点で防災活動を実践した点等が高いため。
		UR都市機構（尾山台団地自治会）	高齢者、女性を意識し在宅避難を前提とした団地の防災力向上に取り組んだ点、自治会が主導して、全国の団地に横展開できる団地防災を実践した点等が高いため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2020	大賞	岐阜県立大垣特別支援学校	学校・家庭・地域、それぞれの連携不足という課題に対し、“自助・共助の力で災害から命を守る“というスローガンを掲げ、「家庭における減災力テスト」や「災害伝言ダイヤルクイズ」の実施など、趣向を凝らした各種プログラムを、精力的にこなした点、コロナ禍の中でも、工夫を凝らした防災訓練をはじめ、児童生徒、職員、保護者、自治会、地域住民といった幅広い対象者と共に、各種取組を進めた点等が高いため。
	優秀賞	北海道標津高等学校	自分たちの住む地域の特徴（熊の出没など）や感染症対策の項目を加えたタイムリーな要素を加えたオリジナル避難所運営ゲーム（HUG）を作成し、活動できた点がとてもユニークであった点、地域住民や中学校を対象としたオリジナルHUGの実践や幼稚園児を対象としたクイズの実施を通して、地域住民との繋がりが強化され、地域全体の防災意識向上に貢献した点等が高いため。
		ガールスカウト東京都 第172団	常時必需品として、マスクや防災カード、女性の視点として取り入れられたホイッスルなどが入ったオリジナル防災ポーチを作成し、寄付付きの商品として販売し、一部を寄付するという、先進的な取組を実施した点、コロナ禍という不測の事態にも拘わらず、防災ポーチの販売ができない時期は、ポスターを作成して、広報PR活動を行うなど臨機応変に、様々な活動を積極的に行った点等が高いため。
	特別賞	特定非営利活動法人 i-care kids京都	立ち上がったばかりの保育園であったが、ゼロからの防災マニュアルの作成や年間の避難訓練計画など、綿密な防災活動計画に沿った取組を行い、それぞれの結果に基づく対策が実施できている点、人工呼吸器をつけられた医療的ケア児や重度障碍児の皆様と共に活動を進めたと同時に、精力的な取組みであった点等が高いため。
		新居浜市立金栄小学校	昨年度の実践活動で取り組まれた金栄小学校のタイムラインを使ったMYタイムラインの作成や、地域のまち歩きを通し、調査した結果をマップ化することで、災害時の危険な場所や、どこに避難所があるのかを理解する取組が、災害時に役立つ実践的な取組みである点、コロナ禍で人が集まる機会が少なくなる中、地域防災新聞を作成し、お年寄りでも見やすい内容で、地域に災害特性の情報を発信した取組を進めた点等が高いため。
		呉工業高等専門学校	新型コロナ感染拡大防止のため、当初予定の出張授業からオンライン版授業に切り替えて、３Dのハザードマップ作製を、小中学生向けの防災教育へ活かした活動が、とても独自性のある取組であった点、３Dによる地図作製とハザートマップの照合といった、目で見てより理解度が高められる仕組みを小中学生の生徒へ展開することが、彼らの将来の理解度にも大きく影響される有効なアプローチであった点等が高いため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2021	大賞	京都府立東陵高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス	コロナ環境下でも、週4時間の科目設定など、年間を通じて計画的にカリキュラムを実施されている点、昨年度からの継続案件であり、昨年度と比較して地域とのつながりを重視した活動に力を注いで取り組まれている点、動画、京都の土地柄を生かした歴史防災教訓学など、高校生の取り組みやすい関心と手法を用いた点等が高いため。
	優秀賞	名古屋市立工芸高等学校都市システム科／工芸防災チーム	工芸高校の特徴を生かし、避難誘導用蓄光ブロック、浸水害疑似体験装置など具体的なツールの開発を通じアプローチをしている点、数年前から継続的に取り組まれ粘り強く改善を図っている点、小学校との連携を図るなど学校や世代を超えた取り組みを行っている点等が高いため。
		千葉県立銚子高等学校	水害、液状化などの被害に遭った地域の特性を踏まえ、危機管理学部を持つ地元の大学、ジオパーク推進協議会、自治体としっかり連携し活動している点、探求型学習で事前準備から実践、成果発表まで体型化されており、カリキュラムがよく練られている点、防災とメディア、防災と正常性バイアス等の心理学の関係に着目している点等が高いため。
	特別賞	糸魚川ジオパーク協議会	紙芝居作家や地元高校生などと紙芝居を作成し、幼稚園や保育園に配布する実践は、小さなこどもへの優良な教材となり大変興味深い点、地元の活火山をテーマに、高校生や集落ごとに地域防災の活性化に向けたワークショップを開催することで、幅広い年代に自然の驚異と恩恵を共有する場となっている点、立地の災害特性を踏まえた多岐にわたる連携やワークショップを展開されたその行動力等が高いため。
		長岡技術科学大学	電気ブレーカーキットの実験は、技術系大学ならではの高い技術のもので、独自性の高い取り組みである点、実験にあたっては、地元の技術者や防災関係者の協力を得るなど地域の方々を巻き込んで取り組んでいる点、天然ダムを模擬したキットでは、実際に小学生と一緒に学習し、小学生から出た生の声を生かし、改良を見出し検討している点等が高いため。
		岡山大学教育学部・酒向研究室	防災とダンスを結び付ける発想が、極めて新規性が高い点、ダンスによって、防災を身近に感じる防災意識変容効果など、効果に対する検証や指導書の作成などもしっかり取り組んでいる点、子供からお年寄りまで幅広く利用でき、汎用性が高いと思われる点等が高いため。

参考） 過去の受賞団体（2008年度以降）

年度	表彰	団体名	受賞理由
2022	大賞	2011team釜石小ぼうさい	東日本大震災を体験し、実際に避難行動をとった先輩が、被害に遭った街を歩きながら、後輩に語りかける「伝承活動」は非常に貴重で、効果的な取組であるという点、震災体験を風化させないよう書物にまとめ、次世代に繋いでいくことはとてもすばらしく、社会的な意義を感じさせる取組だという点、防災教育の成功事例を全国に発信させることは、全国の防災教育の参考ともなり、国民全体の防災意識向上に役立つと感じられる点等が高いため。
	優秀賞	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部	継続的に地元住民と学生が連携を深めよう、育てていこうと取り組んでいる点、運動会という親しみやすい活動の中に、工夫を凝らして、防災を盛り込んでいる点、町内会が主体的に活動しているのは、全国的にも良いモデルであるという点等が高いため。
		文京 de BOSAI	都市部の家族構成など、地域特有の問題に焦点を当て、家庭や地域との連携の大切さを訴えている非常に良い取組だという点、体験と学習を組み合わせたバリエーション豊富なプログラムを実施され、参加者の行動力に訴える、非常に良い内容となっている点、子供の興味関心から、家族、そして地域全体の防災力向上に繋げて行こうといった、しっかりしたゴールをイメージしながら取り組まれている点等が高いため。
	特別賞	愛知県立ひいらぎ特別支援学校	命を守るために、自分、学校、地域に分けて、できることを多方面から検討し、実践しようとしている点、生徒が主体的に考え、行動する機会を作ることで、実際に災害が起こったときの対応力の向上が図られている点、活動の成果を詰め込んだ防災ソングは、児童生徒の防災意識の向上につながるのはもちろん、地域の方々に自分たちが助けを必要としていることを伝えることができ、素晴らしい点が高いため。
		愛知工業大学名電高等学校	避難訓練では、避難時の混雑防止のために、渦巻階段の検討や校内放送による避難規制を行うなど、生徒自らが発想や工夫を凝らし、試行錯誤しながら取り組んでいる点、ガラスの多い校舎に着目し、飛散防止にフォーカスを当てた取組は工業高校ならではの視点であり、ガラスメーカーや建築系企業との連携にも着手した点、その他大学の先生や地元のラジオ局、行政など多岐にわたる連携を行っている点が高いため。

「地域における防災教育の実践に関する手引き」の作成

「地域における防災教育の実践に関する手引き」は、
全国各地で防災教育の輪を広げることを目的に、優秀な先進事例から得られる「取組を進めるための知見」を整理し、防災教育を実践する過程で生じる様々な課題を解決するためのヒントを示すものとして作成しました。

我が国のソフト対策の優れた取組みを世界に発信するため、「地域における防災教育の実践に関する手引き」の英訳を併せて実施しました。

1.手引きの対象

教育・福祉関係団体(学校、幼稚園、保育施設など)に限らず、地域住民団体、ボランティア団体、地方公共団体などにおいて、これから防災教育に初めて取り組もうとする方を主な対象としています。

2. 防災教育の目的

地域に属するひとりひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進することなどにより、地域の防災力(災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ及び災害の復旧を図る力)を強化することを目的とします。

「地域における防災教育の実践に関する手引き」の作成

(参考)手引きに整理した「防災教育を実践する上で重要な18のポイント」

≪3つの段階≫

- 準備
- 実行
- 継続

≪6つの要素≫

人	担い手・つなぎ手
運営	組織・体制
場	時間・場所
お金	資金・経費
ネタ	知識・教材
コツ	工夫

段階	要素	防災教育を実践する上で重要なポイント
準備段階	人(担い手)	① 担い手を決める
	人(つなぎ手)	② 地域のキーパーソンと連携する
	運営(組織)	③ 取組主体を組織化する
	運営(体制)	④ 活動範囲を無理に広げない
	場(時間)	⑤ 準備時間を確保する
	場(場所)	⑥ 活動場所を確保する
	お金(資金)	⑦ 活動資金を確保する
	ネタ(知識)	⑧ 知識や情報を収集する
	ネタ(教材)	⑨ 目的に応じた教材(プログラム)を作成する
実行段階	人(つなぎ手)	⑩ 経験豊富なアドバイザーを確保する
	運営(体制)	⑪ 地域の理解を得て関係機関と連携する
	場(時間)	⑫ 活動時間を確保する
	お金(経費)	⑬ 経費を低減させる
	コツ(工夫)	⑭ 他の実践団体と交流する
継続段階	人(担い手)	⑮ 後任者を育成する
	ネタ(教材)	⑯ 知恵や経験を形式知化する
	コツ(工夫)	⑰ 成果を外部に発表する
	運営、ネタ、コツ	⑱ 活動内容を継続的に見直す

国連防災世界会議における成果報告

平成27年3月14日に第3回国連防災世界会議の関連事業の1つである「防災教育交流国際フォーラム」が開催されました。
日本や海外の防災教育分野で中心的な役割を果たされている方々が一堂に会し、「これまで行われてきた防災教育の取組」や「今後の防災教育のあり方」について、発表や議論が行われました。

【概要】

①東日本大震災やインド洋大津波、四川大地震など、国内・海外の大震災の被災地から世界に向けてその経験や教訓を発信

②日本全国で取り組まれる防災教育・地域防災の優秀事例を紹介
（「地域における防災教育の実践に関する手引き」を紹介）

③防災教育を通じた災害に強い地域づくりに向けた今後10 年の取組みを示す「仙台宣言」を採択

国連防災世界会議における成果報告
防災教育交流国際フォーラムの概要

別添３

第３回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム

防災教育交流国際フォーラム
レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して

Development of a Resilient Community and Improving Disaster Education and Regional Disaster Preparedness

言語：日本語・英語（同時通訳）

日 時 2015年3月14日（土）
9:30～16:50（開場9:00）

会 場 東北大学川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟 2F
マルチメディアホール

本フォーラムでは、東日本大震災やインド洋大津波、四川大地震など、国内・海外の大震災の被災地から世界に向けてその経験や教訓を発信します。また、日本全国で取り組まれる防災教育・地域防災の優秀事例を紹介します。そして、防災教育を通した災害に強い地域づくりに向けた今後10年の取組みを示す「仙台宣言」を採択する予定です。会場では、日本や世界の学校などで実際に使用される防災教育教材などの展示も行います。

ACCESS

仙台市営バス：仙台駅前16番のりば「広瀬通経由交通公園・川内（営）行」「広瀬通経由交通公園折返」乗車　バス停「川内郵便局前」下車（15分）

主催 東北大学災害科学国際研究所　防災教育普及協会
国連防災世界会議関連防災教育日本連絡会　内閣府（防災担当）　文部科学省

後援 岩手県教育委員会　宮城県教育委員会　福島県教育委員会　仙台市教育委員会
全国学校安全教育研究会　東京都学校安全教育研究会　日本安全教育学会

TOHOKU UNIVERSITY　IRIDeS　内閣府　文部科学省

Development of a Resilient Community and Improving Disaster Education and Regional Disaster Preparedness

PROGRAM（暫定）

IRIDeS

9：30 開会挨拶　渡邉正樹　防災教育普及協会副会長、東京学芸大学教授

招待講演

「大震災の経験を踏まえた日本の防災教育発展の20年」
戸田芳雄
学校安全教育研究所代表、東京女子体育大学教授

9：55 第一部 東日本大震災の被災地から学ぶ
挨拶　大路正浩　文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課長

東日本大震災の被害実態と教育復興
佐藤　健　東北大学災害科学国際研究所教授

東日本大震災被災地における教育復興と防災教育の取組み
宮城県教育委員会、岩手県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会

東日本大震災被災地における復興・防災教育の実践事例
石巻復興教育プログラム、減災結プロジェクト、カケアガレ！日本

展示紹介
減災アクションカードゲーム、彦根工業高校（滋賀県）、アトリエ太陽の子（兵庫県）、全国教育委員会、他

12：00 昼食・休憩（展示コーナー見学、参加者交流）

13：00 第二部 世界、日本各地の防災教育の実践から学ぶ
挨拶　内閣府

1. 世界の大震災被災地における取組みから

2004年インド洋大津波被災地インドネシア国バンダアチェ州の防災教育
サムスル・リザール　シャークアラ大学学長
ハイルル・ムナディ　シャークアラ大学津波災害軽減研究センター所長
ムハマンド・ディルハムシャー　シャークアラ大学大学院災害科学プログラム長

2008年四川大地震と中国の学校安全
林生　四川大学一香港理工大学災害復興管理学院執行院院長、教授
コメンテーター　ミーヨン・チョイ　国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、ジャカルタオフィス教育専門部長

2. 防災教育　優秀実践事例から

シェイクアウト訓練
マーク・ベンセン　南カリフォルニア地震センター 局長、神奈川県座間市

日本各地から
仙台市南吉成中学校（宮城県）、気仙沼市階上中学校（宮城県）、盛岡市あそびma・senka（岩手県）
田辺市立新庄中学校（和歌山県）、東金特別支援学校（千葉県）、やさしい日本語（京都府）

「地域における防災教育の実践に関する手引き」紹介
林　春男　防災教育チャレンジプラン実行委員長、京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授

15：55 第三部 仙台宣言とパネル討議
コーディネーター　矢崎良明　全国学校安全教育研究会顧問、鎌倉女子大学講師
パネリスト　今村文彦　東北大学災害科学国際研究所所長、教授
林　春男　防災教育チャレンジプラン実行委員長
平田　直　防災教育普及協会会長、東京大学教授
藤岡達也　仙台宣言起草委員副委員長、滋賀大学教授
渡邉正樹　日本安全教育学会会長
他

16：40

仙台宣言採択・閉会挨拶
今村文彦　東北大学災害科学国際研究所長、教授、国連防災世界会議防災教育日本連絡会会長

16：50 展示コーナー見学（於 1階ラウンジコーナー）

18：00 防災教育交流会（懇親会）（於 川内北キャンパス キッチンテラス・クルール）※別途お申込みが必要です。

フォーラム・懇親会のお申し込みはこちらから → http://www.bousai-edu.jp/jde-liaison-network/contact.html
（締め切り：2015年2月28日）

お問い合せ先　東北大学災害科学国際研究所　情報管理・社会連携部門　災害復興実践学分野
Tel. 022-752-2104　Fax 022-752-2105　Email:drdm1@irides.tohoku.ac.jp（担当 桜井）
一般社団法人 防災教育普及協会（公益財団法人 日本法制学会内）
Tel.03-6822-9901　Fax 03-3556-8217　E-mail：edinfo2014@bousai-edu.jp（担当 宮崎）